

## 経営トップの責任を明確にせよ！

### 神戸地検、最高責任者・井出正敬社長（当時）の事情聴取

JR西日本福知山線脱線・転覆事故で、兵庫県警は業務上過失致傷容疑で、運転士を含める経営幹部ら10名を書類送検（9月8日）しましたが、遺族や負傷者などから経営最高責任者の刑事責任を明確にすべきという強い声が上がっていました。

今回、当時の社長の事情聴取が行われたことにより、経営トップの責任があらためて問われることとなりました。

JR西日本山崎社長は、書類送検されてなを辞任の意志がないことをいち早く表明していました。このような中、JR西労の仲間たちは、9月28日「経営責任を追求する集会」を開催し、経営トップの責任の明確化を訴えてきました。今回、神戸地検が事情聴取に動いたのは、遺族の心情はもとより、このような闘いによるところであり、営利優先・運行第一の企業体質にくさびを打ち込み、経営責任を明確にさせる力となりました。

JR西脱線 <b>井手元社長を聴取</b> ATS不設置の判断など	
百七人が死亡、五百六十二人が負傷した二〇〇五年四月の尼崎JR脱線事故で、神戸地検は五日、JR西日本が事故現場を急カーブに付け替えた一九九六	井手氏の書類送検を見送っているが、地検は、カーブ付け替え時に自動列車停止装置（ATS）を設置しな
兵庫地検は「安全対策について具体的な権限がなかったとして	井手元社長は五九年、旧国鉄に入社。国鉄分割・民営化を推進した中心人物の一人。
井手元社長は五九年、旧国鉄に入社。国鉄分割・民営化を推進した中心人物の一人。	井手元社長は五九年、旧国鉄に入社。国鉄分割・民営化を推進した中心人物の一人。

JR福知山線脱線・転覆事故  
経営幹部（当時）の責任を再検討か？